

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

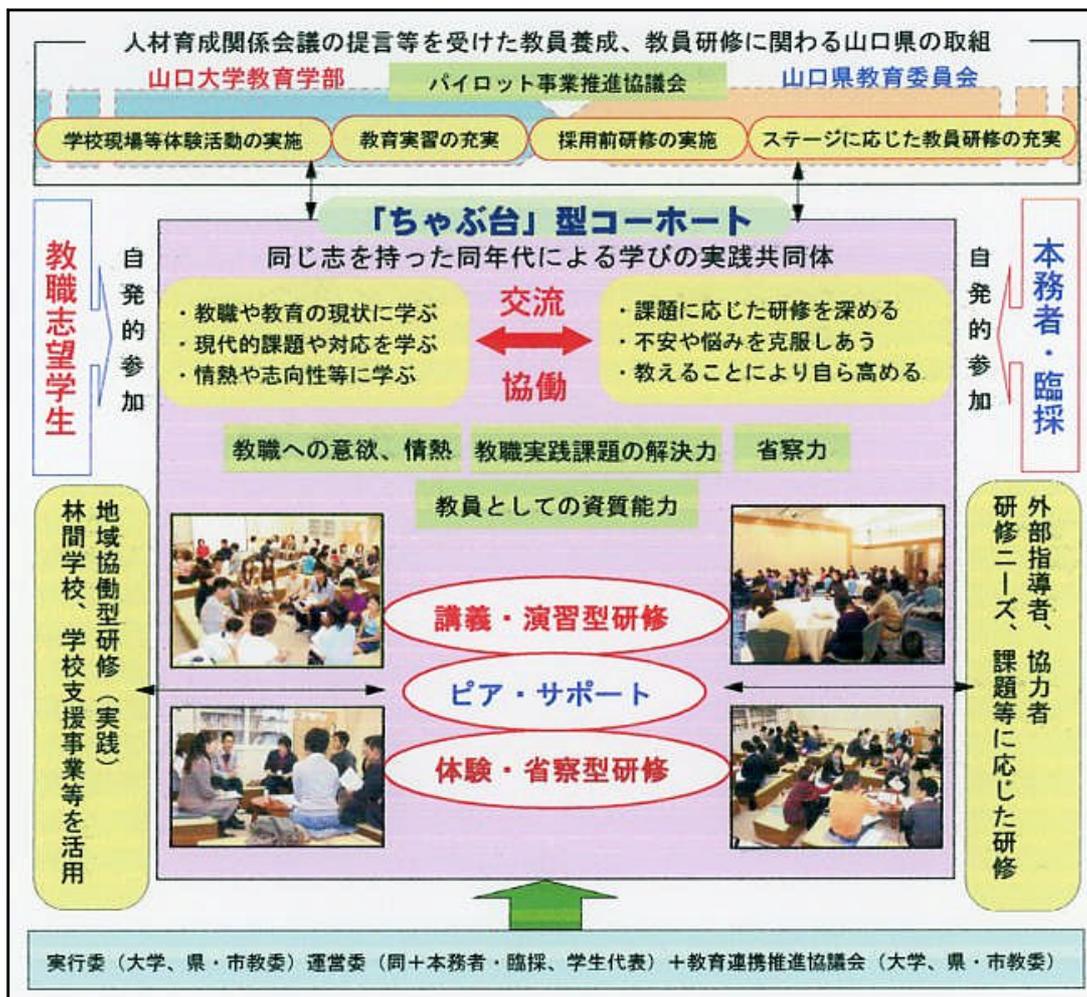
プログラム名	「若年教員」と「教職志望学生」が「ちゃぶ台方式」でつくる協働型教員研修モデル
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 本プログラムは、経験の浅い「若年教員（本務者・臨時的任用教員）」と「教職志望学生」が、相互研修組織（「ちゃぶ台」型コーホート）を設立し、大学教員と県教委・市教委等職員との協働のもとで、日々の現場実践、教育実習、教職実践体験等の共有と省察、教えあい・学びあい等を通じて、教員としての資質の深化、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図る教員研修モデルである。・ 本プログラムは、連携3者による「教育連携推進協議会」のもと、「実行委員会」、「運営委員会」を立て組織的に進めることをとおして、大学と教育委員会のより緊密な連携をめざし、教員研修における協働を具体的に進める教員研修モデルである。

平成22年3月

山口大学 山口県教育委員会 山口市教育委員会

プログラムの全体概要

- 本プログラムは、山口大学と山口県教育委員会・山口市教育委員会が連携し、教職経験の浅い「若年教員（本務者）」、「同（臨時的任用教員）」と「教職志望学生」による協働型研修組織（「ちゃぶ台」型コーホート）を設立し、学校現場での教育実践、教育実習や教職実践体験等の共有と省察、教えあい・学びあい等をさせることをとおして、教員としての資質能力の深化、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図る教員研修のモデルプログラムである。
- 本プログラムでは、大学と県教委・市教委で構成する既存組織「教育連携推進協議会」を活用し、教員の養成・採用・研修の一体化、教員養成の質的改善や現職教員、特に若年教員の研修の充実等について研究協議や情報交換等を行いながら事業を展開する等、大学と教育委員会の連携（意見・情報交換、共通理解、役割分担、協働実践）を重視し実施してきた。
- 本プログラムでは、大学教員、県・市教委担当で構成する「実行委員会」と、それに研修者である若年教員（本務者・臨時的任用教員）、教職志望学生の代表を加えた「運営委員会」を組織し、プログラム全体や各研修行事等について企画、準備、運営や評価等を行ってきた。
- 本プログラムは、以下の3研修プログラム（研修行事等）で構成された。各プログラムについては、「Ⅱ 開発の実際とその成果」に示す。
 - ①「ちゃぶ台型ピア・サポート」
 - ②「講義・演習型研修」
 - ③「体験・省察型研修」
- 概念図は以下のとおりである。



I 開発の目的・方法・組織

1. 開発の背景と目的

現在、中央（大都市圏）に比べて地方（周辺部）では、「若年教員（本務者）」の相対的比率が低く、彼らと同世代の教員との交流や研修の機会が少ない。教育委員会等により研修の機会は提供されているが、「初任者研修」以外は校務や配当予算からの制限等により参加が困難であったり、研修内容や形態が若年教員の状況や研修ニーズに対応できていないケースもある。教員の年齢構成、職場内人間関係の希薄さや経験、実績の浅さ等から、彼らが孤立する傾向も指摘されている。

また、近年、教育ニーズの多様化、市町村雇用補助教員の増加や教員退職者の増加等により臨時的任用教員の割合が増加し、多数の「若年教員（臨時的任用教員）」も教壇に立っている。彼らも本務者と同じく学校教育において重要な役割を果たし、児童生徒、保護者や地域住民等からは本務者同等の機能や指導力が求められ、高い期待や厳しい評価に曝される存在である。しかし、特に「若年教員（臨時的任用教員）」の研修や交流の機会は少なく、指導上の悩みや不安を抱え、自信の喪失や教職員集団での孤立・孤独等を見せる者も多い。彼らの教職に対する意欲、情熱や使命感等の低下も指摘されている。

「若年教員（本務者・臨時的任用教員）」やこれから教職に就く「教職志望学生」は、早い時期から中堅教員として学校を支えなければならない存在であり、教員研修の充実により、次代の教育界を担う彼らの教員としての資質能力を高めることは、今後の国や県の教育を左右する喫緊の課題と認識している。

そこで、大学（教員養成・教員研修事業担当教員チーム）と山口県教育委員会・山口市教育委員会（教員研修事業等担当者）が連携し、教職経験の浅い「若年教員（本務者）」、「同（臨時的任用教員）」と「教職志望学生」による協働型研修組織（「ちゃぶ台」型コーホート）を設立し、学校現場での教育実践、教育実習や教職実践体験等の共有と省察、教えあい・学びあい等をさせることをとおして、教員としての資質能力の深化、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図る教員研修のモデルプログラムを開発することとした。

2. 開発の方法

本学教育学部は、平成17年度以降「『ちゃぶ台』方式による協働型教職研修計画」として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政担当者・教育関係者等との協働による「地域協働型教職研修」、「省察・個別的支援型研修交流」、「成果集積・共有型機能整備」に取り組み、「考える力を持ち、教員としての学びができる学生」の育成を柱とする教員養成事業の活性化を図ってきた。

これらの取組の中で、学生や現職教員が、様々な教職実践体験を積み重ねる中で、自らの課題意識、主体性やリーダーシップ等を体得していくことや、省察を重視し、自他による評価や教えあい・学びあいを重視する中で、教職実践と理論を統合させ、自らの教育実践に自信と具体的な方向性を持ち始めることが明らかになってきた。

一方、現職教員からは、知識理論詰込型が多い教員養成カリキュラムに対する改善要望、新任教員に対する採用前研修の体系的・実効的プログラムの必要性や現職教員研修、特に経験の浅い「若年教員」に対する研修の在り方の検討等を求める声も多く聞かれている。

以上の経緯、経験やニーズをふまえて、本プログラムの開発にあたっては、次の方法、手順を用いた。

① 若年教員の現状、教育指導に関する意識や研修ニーズを把握する

山口県教育委員会と共に、若年教員に対する全県アンケート調査を実施し、若年教員自身の教育指導に関する自己評価や不安等を収集・分析することをとおして、若年教員の現状や研修ニーズを把握する。

② 教員研修組織、各研修プログラムや内容をモデル化する

受講者の現状や研修ニーズ等をふまえた教員研修事業の具体化、研修事業の効率的な実施、運営や大学と教育委員会との連携強化等に向けた推進組織を確立するとともに、研修組織、各研修プログラムや研修内容をモデル化する。

③ 研修プログラム（研修行事等）を実施し、成果を検証する

研修プログラムも実施し、評価を行うとともに、成果と課題を検証する。

④ 「交流人事教員」、「実務家教員」のコーディネート機能を活用する

本プログラムの開発にあたっては、大学と山口県教育委員会・山口市教育委員会との連携に加え、県内の学校や教育関係機関、団体等との連携、ネットワークが必要不可欠である。山口県教育委員会と大学間の「交流人事教員」や現職教員経験を有する「実務家教員」が、学内外をつなぐコーディネータとして機能する必要がある、その関わりを重視する。

3. 開発組織

本プログラムの開発、推進にあたっては、本学教育学部・山口県教育委員会・山口市教育委員会で構成する既存組織「教育連携推進協議会」のもとに、大学（教員養成・教員研修事業担当チーム）教員、山口県教育委員会・山口市教育委員会（教員研修事業等担当課）担当で構成する「実行委員会」を組織し、基本方針、企画検討や評価等を行った。

また、各プログラムや個別の研修行事を進めるにあたっては、大学教員と「若年教員（本務者・臨時的任用教員）」、「教職志望学生」の代表者を中心に、山口県教育委員会・山口市教育委員会担当者の協力や助言を得ながら計画、準備、運営や評価等を行った。

「実行委員会」は年間3回、「運営委員会」は各研修プログラムの計画、準備や運営等の作業が中心となることから、各プログラム前に実施することとした。「運営委員会」には現職教員や院生もおり、校務やゼミ等と重なる場合は、電話連絡やメール交換等で進めた。

推進組織の構成、担当・役割分担等は次のとおりである。

【実行委員会】

所属・職名	氏名	担当・役割分担	備考
山口県教育庁	中村哲夫	事業の方針・計画作成、評価等	審議監
山口市教育委員会	縄中宏明	事業の方針・計画作成、評価等	学校教育課長
山口大学教育学部	村上清文	総括（事業代表者）	副学部長
山口大学教育学部	霜川正幸	事業運営、渉外（事業主務者）	実務家教員
山口大学教育学部	西岡尚	事業運営、渉外、連絡調整	交流人事教員

①第1回 平成21年6月

- ・事業方針、計画や推進体制についての協議、決定
- ・若年教員の現状や教育指導に関する意識等を探る全県アンケートの検討
- ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等

②第2回 平成21年12月

- ・事業の進捗状況報告、中間評価
- ・後半の事業計画や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等

③第3回 平成22年3月

- ・事業総括、評価と今後の教員養成・採用・研修のあり方にかかる協議、意見交換
- ・次年度の事業実施に向けた工夫改善にかかる意見・情報交換等

【運営委員会】

所属・職名	氏名	担当・役割分担	備考
山口県教育庁 教職員課	中 垣 謙 司	事業検討、他事業との調整、講師 選定、各種調査等協力	教育調整監
山口県教育庁 教職員課	大 塚 泰 二	事業検討、講師選定・派遣、各種 調査協力、情報収集、指導助言	管理主事
山口市教育委員会 学校教育課	縄 中 宏 明	事業検討、講師選定・派遣、各種 調査協力、情報収集、指導助言	課長
山口大学教育学部	村 上 清 文	総括（事業代表者）	副学部長
山口大学教育学部	霜 川 正 幸	運営全般、財務、渉外、連絡調整	実務家教員
山口大学教育学部	西 岡 尚	事業運営、渉外、連絡調整	交流人事教員
山口大学教育学部	長谷川 裕	事業運営、渉外、連絡調整	交流人事教員
山口大学教育学部	鷹 岡 亮	体験省察型研修、渉外、連絡調整	
6 附属学校・園	連携等担当教員	情報提供、連絡調整、企画検討等	各校 1 名
若年教員代表	川 口 慎 司	研修計画、連絡調整、運営等担当	本務者
若年教員代表	黒 川 真 美	研修計画、連絡調整、運営等担当	臨時的任用教員
教職志望学生代表	湊 内 彩 加	研修計画、連絡調整、運営等担当	大学院 2 年

①第1回 平成21年6月

- ・事業方針、内容、計画や運営体制についての協議
- ・教育学部の教員養成・研修事業や今後の連携にかかる意見・情報交換等

②第2回 平成21年6月

- ・「若手教員に対するアンケート」実施にかかる協議
- ・講義・演習型研修の実施内容、計画や広報等にかかる協議、意見交換等

③第3回 平成21年7月

- ・研修事業、「アンケート」実施に向けた県内全市町教育委員会訪問にかかる協議
- ・山口市内全小中学校への広報周知にかかる打ち合わせ
- ・体験・省察型研修の実施内容、計画や広報等にかかる協議、意見交換等

④第4回 平成21年9月

- ・県内全市町教育委員会訪問の報告、「アンケート」処理、分析等にかかる協議
- ・県教委ウェブページ、採用前研修等での連携にかかる打ち合わせ等

⑤第5回 平成21年11月

- ・事業（前期）の総括、事業（中期）の計画案や連携強化に向けた協議
- ・「アンケート」集計結果の報告と教員研修の充実に向けた意見・情報交換等

⑥第6回 平成22年1月

- ・事業（中期）の総括、事業（後期）の計画案や連携強化に向けた協議
- ・次年度の事業実施に向けた工夫改善にかかる意見・情報交換等

⑦第7回 平成22年3月（第3回「実行委員会」と合同開催）

- ・事業総括、評価と今後の教員養成・採用・研修のあり方にかかる協議、意見交換
- ・次年度の事業実施に向けた工夫改善にかかる意見・情報交換等

II 開発の実際とその成果

1. 若年教員の現状、教育指導等に関する意識や研修ニーズ

(1) 山口県公立学校教員の採用動向、校種別教員数、年齢構成と若年教員の現状

右の表1は、山口県公立学校教員採用候補者試験の志願者と採用者の数を示したものである。（山口県教育委員会提供）

表1 山口県公立学校教員（志願者・採用者）の動向

山口県	採用年度	S 60	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21
小 学 校	志願者数	925	596	561	618	536	462	428	431
	採用者数	246	60	70	80	90	79	77	71
中 学 校	志願者数	1,087	740	770	848	710	653	593	544
	採用者数	277	40	40	40	40	34	36	40
高 校	志願者数	607	549	680	855	599	558	457	417
	採用者数	170	40	42	44	40	36	36	36
特殊教育	志願者数	—	28	45	38	37	20	18	39
	採用者数	—	8	8	7	6	2	5	4
養護教諭	志願者数	174	111	123	142	118	103	103	132
	採用者数	21	8	8	10	10	8	8	8
全 体	志願者数	2,793	2,024	2,179	2,501	2,000	1,796	1,599	1,563
	採用者数	714	149	163	168	191	159	162	159
	倍 率	3.9	13.6	13.7	14.9	10.5	11.3	9.9	9.8

ここ数年、各校種の採用者数に大きな変化はなく、倍率10倍前後の「狭き門」である。この約160人の採用者が県内600余の公立学校に配置されていくこととなり、1校あたりの若年教員の割合も低くなっている。勤務校に同年代（20代）の若年教員がいないというケースも多い。

次に、山口県公立学校（小・中学校）の教員数、年齢構成を図1、2に示す。（山口県教育委員会提供、平成21年度）

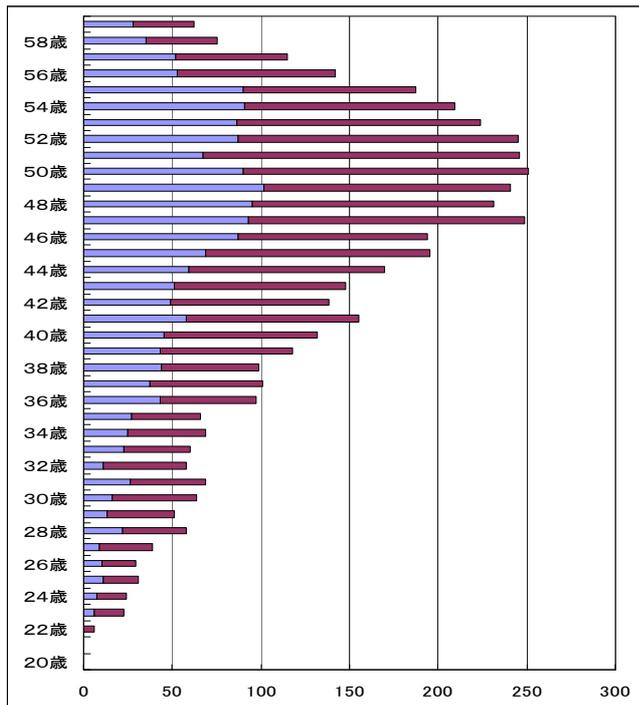


図1 小学校（男1,780人、女2,941人）年齢構成

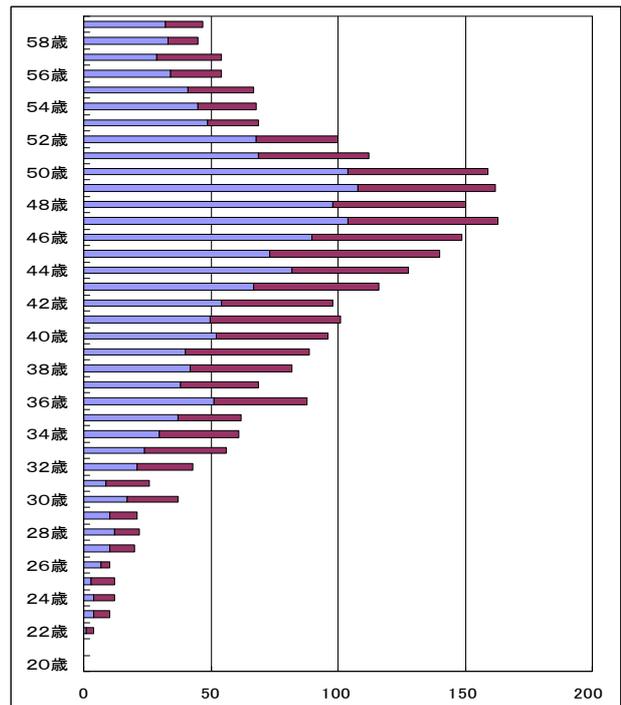


図2 中学校（男1,663人、女1,175人）年齢構成

高等学校、特別支援学校の状況も図1、2（小・中学校）とほぼ同様である。各校種とも、20歳台から30歳台前半の教員自体が少なく、各学校において、経験や実績の浅い若年教員同士が、相互の教育実践を肯定的、支持的に受けとめながら、自由に気軽に研修交流するのは難しい状況と言えよう。

この状況は、山口県に限らず、中央（大都市圏）を除く全国各地に当てはまるものであり、各地の大学と教育委員会が連携して、次代の教育界を担う若年教員に対する教育研修の質的充実を図ることが期待される。

(2) 教育指導等に関する意識や研修ニーズ

本プログラムでは、若年教員の自己評価により、教育指導や校務処理等に対する意識、得意不得意や不安等を把握するとともに、若年教員の研修における必要課題を探るため、県内全公立学校の若年教員に対する「若年教員に対するアンケート」を実施し、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の578人から回答を得た。調査結果の一部を報告する。

「アンケート」では、教育指導の場面や観点、合計27項目について、自分自身の状況を4段階で評価させた。

その中で、若年教員は、「Q8:教育的愛情」「Q15:教職員としての使命感」「Q21:教育公務員としての法的理解」「Q22:教育公務員としての勤務態度」「Q26:子どもや学校のプライバシーの保護」については多くの者が「そう思う（出来ている、自信がある）」と答えている。

その反面、学習指導「Q3:学習指導に必要な教養・知識・技能」「Q2:児童生徒に応じた指導方法」「Q4:適切な教材の扱い方、資料活用」、生徒指導・学級経営「Q14:問題を有する児童生徒への指導」「Q12:児童生徒への接し方」「Q20:保護者への適切な対応」や校務・サービス面「Q19:自己への期待、自己有用感」「Q25:研修や学習への取組み」については多くの者が「思えない、あまりそうは思えない（出来ていない、自信がない）」と答えている。

特に、図3、4における小学校、図5、6の中学校・高等学校の若年教員の肯定的評価が低い。

図7は、指導や業務の場面ごとの評価を校種別に見たものである。場面を「学習指導」「生徒指導、生活指導」「組織性、校務処理・運営」「教員としてのサービス」に分け各校種での差、違いを見た。

「組織性、校務処理・運営」や「教員としてのサービス」では、校種による大きな違いは見られない。反面、小学校若年教員が「学習指導」に大きな不安を有すること、中学校、高等学校では「生徒指導、生活指導」に不安を有す

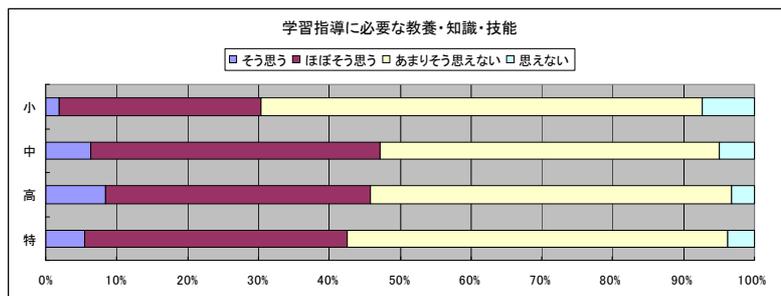


図3 学習指導に必要な教養・専門的知識・技能を有している

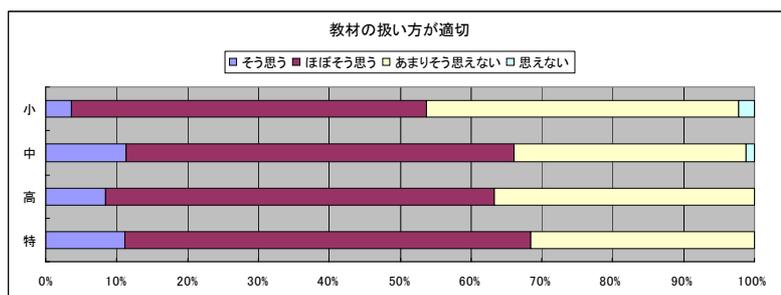


図4 教材の扱い方、資料や教具等の準備・活用は適切である

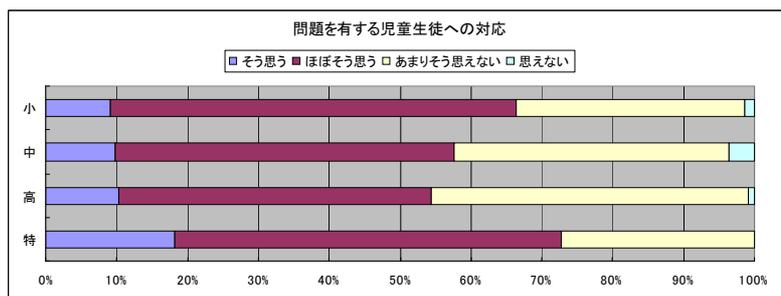


図5 問題を有する児童生徒への指導、対応が適切である

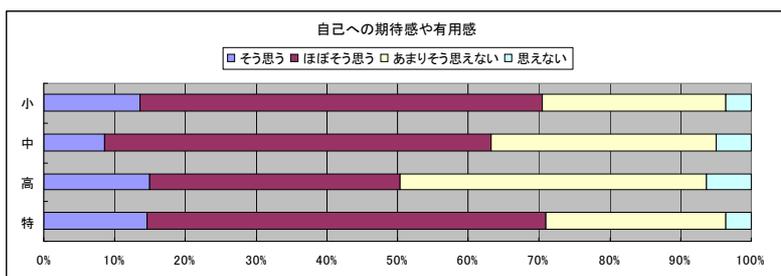


図6 期待されたり、学校運営において有用感を感じる

る若年教員の割合が高くなり「学習指導」上の不安と同程度となること等が分かる。

最後に、学習指導を行うにあたり、不得意、不安や支障等を感じる教科、領域を校種別に図8に示す。

教科、領域の区分は次のとおりである。1:国語 2:算数・数学 3:社会 4:理科 5:生活 6:図画工作・美術 7:音楽 8:体育・保健体育 9:技術家庭 10:英語 11:学級活動 12:児童・生徒会活動 13:学校行事 14:総合的な学習の時間

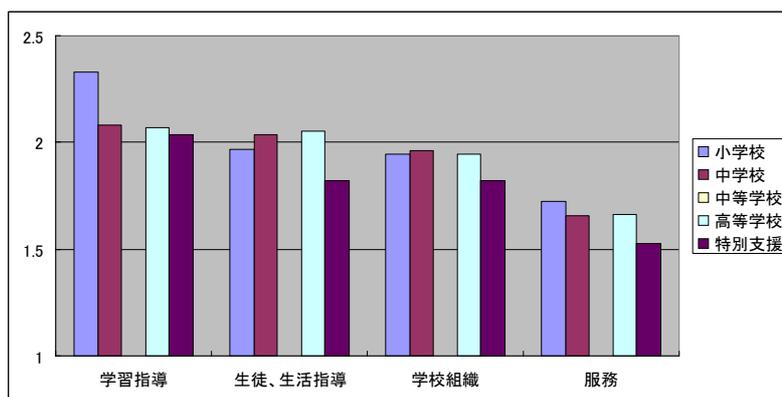


図7 自己の指導に関する場面、観点別の評価（校種別）

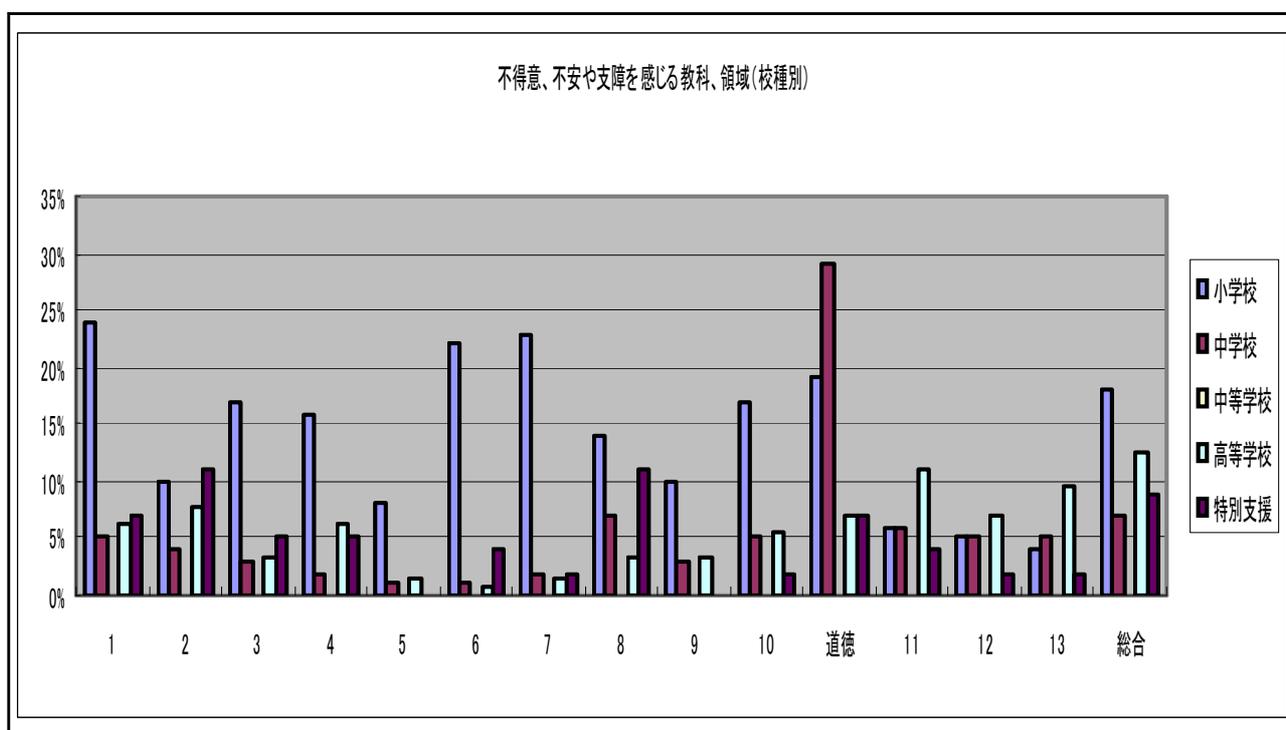


図8 不得意、不安や支障等を感じる教科、領域（校種別：左から小・中・中等・高・特）

小学校若年教員の回答では、教科指導に対する不得意感や不安が大きく現れている。国語、社会、理科、図画工作、音楽への不安が強く、特に国語、図画工作、音楽は4人に1人が不安を感じている。外国語活動、道徳や総合的な学習の時間も割合が高い。

教科担任制を基本とする中学校では、圧倒的に道徳に対する不得意感、不安が強く30%に近い。高等学校では、総合的な学習の時間、学級活動(LHR)や学校行事の割合が高い。

特別支援学校では、算数・数学、体育・保健体育、国語や総合的な学習の時間の割合が高いことがわかる。

本プログラムでは、これらの受講者（若年教員）の現状や研修ニーズ等をふまえ、教員研修のあり方や個別具体的な研修ニーズに対応出来る形態や方法等の工夫改善が必要となった。学級、教科担任制と教科や領域、児童生徒の発達と指導や対応のあり方等もふまえ研修プログラムを具体化した。

2. 研修プログラムの実際（研修項目、内容の配置、広報周知と実践の具体）

(1) 研修内容の整理

研修プログラムの具体化、研修内容の検討を行うにあたり、「若年教員に対するアンケート」結果に見られた若年教員の不得意感、不安の強い内容を中心に編成することとした。学習指導「①学習指導に必要な教養・知識・技能」「②児童生徒に応じた指導方法」「③適切な教材の扱い方、資料活用」、生徒指導・学級経営「④問題を有する児童生徒への指導」「⑤児童生徒への接し方」「⑥保護者への適切な対応」、校務・服務面「⑦自己への期待、自己有用感」「⑧研修や学習への取組み」について検討し、中堅教員等による実践事例研究、講義演習と少人数編成による研究協議を中心とすることとした。

また、昨年度の研修事業で「学びたい研修テーマ」として上位にランクされたものについて加えることとした。（表2）

表2 学びたい研修テーマ（昨年度研修事業での協議から）

記号	求める研修内容等	1班	2班	3班	4班	5班	合計
G-1	保護者との関わり、つきあい	2	3	4	6	2	17
A-1	興味関心、意欲を高める授業づくり	3	6		2	6	17
C-1	学級経営、学級づくりの基本	6		2		6	14
D-4	人間関係づくりに活用できるゲーム、ワーク		3	4	5		12
D-3	児童生徒の人間関係づくりの基本	3	3		3	3	12
H-4	教師としてのマナー、態度			2	3	6	11
D-6	児童生徒に関わる際の言葉、態度、雰囲気			2	6	3	11
D-5	カウンセリングの知識と技能	4	4	1			9
C-6	朝夕の会、給食、清掃等の指導	4	5				9
H-2	人前で話せる表現力			3	3	2	8
D-2	児童生徒の状況把握、理解の方法	3		3		2	8
C-4	教室掲示等教室環境	1		3	3		7
B-6	特別支援教育のあり方				4	3	7
H-5	教師としての教養、人づきあいの拡大				3	3	6
H-1	教師の服装、身なり、身だしなみ	2		2	2		6
C-5	学級づくりに活用できるレクリエーション、ゲーム		6				6
C-2	年度当初の学級経営	3	3				6
D-1	児童生徒との信頼関係づくり	5					5
A-6	授業を深める発問のあり方		3	2			5

(2) プログラムの広報周知

本プログラムは、若年教員や教職志望学生の自主的、自発的な研修事業であり、「参加できる時に、参加できる範囲や形で、自由に関わる」スタイルとした。講義・演習型研修や一部の体験・省察型研修については、準備の都合から事前申込としたが、体験・省察型研修も含めて当日参加可とし、受講生の意思を尊重し一人ひとりの課題意識、目標設定に応じた継続的、長期的な取組を誘導することとした。

若年教員に対する広報は、全県対象の「若年教員に対するアンケート」にあわせ、県内全公立学校に文書を配布した。配布にあたっては「運営委員会（大学スタッフ）」が県内全市町教育委員会教員研修関係課を訪問し、文書の依頼、配布を行った。

また、山口県教育委員会からは、全市町教育委員会教育長、全公立学校長に対し、山口県教育委員会として、本プログラムの理解、支援とアンケートへの協力を依頼する文書の配布、各校種校長会における広報と協力依頼、県が有する逋送ルートを利用したアンケート回収の手配、山口県教育委員会Webサイトへの掲載（図9）や「山口県教員採用予定者研修会」での広報等多大な協力を得た。

山口市教育委員会からは、山口市立学校・園長会における事業説明と参加奨励、広報チラシ等の配布や市内逋送便の使用等の許可を得た。

学生には、全学的な掲示、チラシ配布、メール配信等による広報、参加奨励を行い、事業説明、行事等の計画案内等について教育学部ちやぶ台プログラムWebページ（e-ちやぶ）により広報した。



図9 県教委Webページへの掲載

(3) ちゃぶ台次世代コーホート（講義・演習型研修、ちゃぶ台型ピア・サポート）の実際
【第1回研修会】（趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等）

①趣旨

協働型教職研修の第1次行事であることをふまえ、今後の活動に対する意欲、態度や主体的な参画意識等の向上を図る。

②開催日時 平成21年10月3日（土） 14:00～17:00

③開催場所 山口大学教育学部 「ちゃぶ台ルーム」

④研修内容等

(1) 指導講話 (14:00～15:10)

演題 「私が追いつけた教職の道～どうしても教員になりたかった～」

講師 光市立岩田小学校 教諭 平尾 寛 先生

(2) 演習 (15:20～16:30)

テーマ 「豊かな人間関係をつくる～研修の関係づくり＋現代的課題への対応～」

講師 山口大学教育学部 准教授 霜川 正 幸

(3) ちゃぶ台フリー協議、ピア・サポート (16:30～17:00)

⑤参加者数

本務者 (10) 臨時的任用教員 (10) 学生 (20) 指導者 (1) スタッフ (9) 計50人

⑥研修の評価方法、評価結果と受講者への再指導（補充・発展）

本プログラムでは、研修行事毎に受講者による「自己評価（観点別の満足度・充実度調査）」と運営委員会（運営スタッフ）の「全体評価」を行い、受講者への補充・発展的指導、助言や事業運営の工夫改善に生かすこととした。

自己評価は、研修会終了時に「自己評価表（評価シート）」を記入させ、研修の振り返り、学びの整理と省察をさせた。「自己評価表」は、「1 今日の研修会全体を通して、あなた自身が、学んだ、分かった、考えさせられた、印象に残った等のことをキーワード5つで表してください。」「2 学んだ、気づいた、参加者に教えられたことや、ご意見ご質問等について自由に書いてください。」「3 研修会を通して、立場の異なる人から（現場教員の人は学生から、学生の人は現場教員から）の学びがありましたか？有ったと思う人は、そのことについて自由に書いてください。」の3項目に加え、教員の資質能力に関わる観点による「学びの満足度」を測ることとした。（図10）

第1回は、小学校中堅教員による教職の意義、使命や

4 研修会の各内容について、あなた自身の学びの満足度をお尋ねします。以下の項目について、あなたの感じ、印象を「◎、○、△」で記入してください。今回の研修内容が全ての項目に関わるとは限りませんので、「学んでいない」と感じる項目は「空欄」で結構です。

◎：強く(しっかり)学んだ、感じた ○：かなり(ある程度)学んだ、感じた △：学んだ、感じたと思う

項	目	平尾講演	GWT演習	班別協議	その他
1	学校教育や教職についての理解 教職の意義、教育の理念、思想・歴史の理解、学校教育の制度、社会、経営的理解				
2	子どもについての理解 心理・発達のな子ども理解、学習集団の形成、子どもの状況に応じた対応				
3	他者との協力 他者意見の受容、保護者等との連携協力、共同実践、他者との協力、役割遂行				
4	コミュニケーション 発達段階に応じた関わり、子どもに対する態度、公平・受容的態度、社会人の基本				
5	教科・教育課程に関する知識技能 学習指導要領、教育課程の理解、学習指導法、教科指導、道徳、特活、総合、情報				
6	教育実践 教材分析、授業構想、教材開発、授業展開、表現技術、学級経営等の知識技能				
7	課題探求 課題認識と探求心、教育時事問題				

図10 自己評価表の設問4「各研修内容の満足度、充実度」

情熱に関する指導講話、受講者同士の研修仲間づくりと学校現場での実践素材提供を意図した人間関係づくりのGWT（グループワークトレーニング）と少人数編成での研究協議、「ちゃぶ台」型ピア・サポートで編成したことから、3研修内容毎に評価を行った。各研

修内容について7つの観点から尋ねた結果を示す。

中堅現職教員を招聘しての指導講話については、「学校教育や教職についての理解」「子どもについての理解」「教育実践」に高い評価を得たおり、それらの観点での受講者の研修の充実深化につながっている様子が伺える。

受講者同士の交流や関係づくり実践を導入したGWTは、「他者との協力」「コミュニケーション」「人間関係づくり等の課題探求」が高い。集計は評価のポイントを総合する形態にしており、総合ポイントが最も高いこのGWTが受講者にとり一番充実した研修内容であったこともわかる。

「ちゃぶ台」型ピア・サポートについては、「他者との協力」「コミュニケーション」「教育実践」が高く、日々の現場実践の課題解決に向けた取組としての機能が伺える。第2回以降も同様に示すこととする。

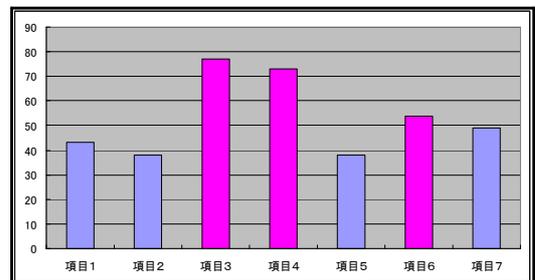
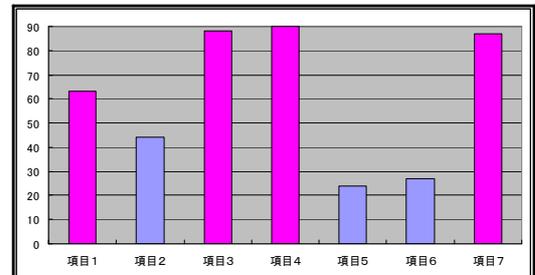
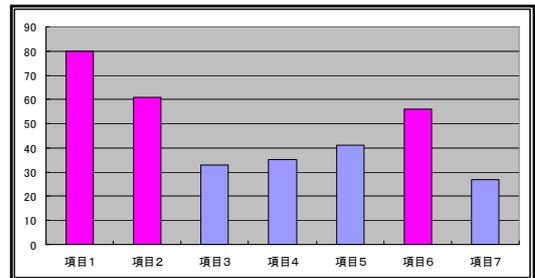


図11 内容1～3の観点別評価の実際（第1回）

コーホート! Hop!

「ちゃぶ台次世代コーホート」通信NO.1 2009.10.5
山口大学教育学部教員研修モデル開発事業事務局
〒753-0513 山口市吉田1677-1 TEL. 083-933-5458

100の瞳 キラリ!

集う、結ぶ、学ぶ「ちゃぶ台」次世代コーホート 始まる!

会員の皆さんこんにちは。お元気ですか?先日の「中秋の名月」見ました?日々の仕事や勉強のバタバタの中で、ゆっくりと自然を愛(め)で、古(いにしえ)に想いをはせる「心の余裕」を失っていませんか?爽やかな秋ではありますが、秋の夜長も楽しみたい。さて、10月3日、山口大学教育学部ちゃぶ台ホールで、第1回研修会を開催しました。さすが、教職をキーワードに結ばれた同年代の仲間(コーホート)たち。和やかな温かい雰囲気の中で充実した研修が展開されました。報告を兼ねた「学級通信」をお届けします。

研修会には、九州女子大、山口大学の学生20人、若手の現場教員20人の40人+大学や山口県教委関係者10人も加わり、計50人、100の瞳キラキラ!熱気に溢れる研修会でした。

吉賀和利学部長の挨拶に続き、先市立岩田小学校の平尾 寛先生から「私が追い続けた教職の道〜どうしても教員にならなかった」と題した講演をいただきました。心のこもった温かい、情熱的なお話、涙ぐむ人も...感動でした。

「お話を聴いて「教師として生きる姿勢」を改めて考えた。自分はまだ1年目で分からないことも多く専門性も不足している。その中で失敗など表面的な結果ばかりに気持ちが向いていた気がする。この研修を契機に、自分の教師としての原点を見つめ直したいと思った。1年目だし、失敗しても聞き直る位でのつもりで「こけましよう」の気持ちをもちたい。100%の努力をして失敗して悔みたくと思った。(教員)

・平尾先生の「情熱」に感動させられました。本当に生徒を前にしたら「情熱」が無いと授業やその他の「場での指導」はできないと思います。実感しています。(教員)

・平尾先生のお話では、失敗を恐れずまずやってみることの大切さを学びました。「自分の今の力に自信がない」といつも感じていたのですが、それも、まずやってみて、立ち上がって、そして成長するのだというお話を聞き、これからは色々なことにチャレンジしてみようという気持ちになりました。(学生)

・今の自分がとても恥ずかしくなりました。お話を聴いて努力の姿の字もできていないと思いました。今日から心を入れ替えます。(教員)

・教師には、半歩可な気持ちではなっていないと思った。平尾先生には圧倒されたし、情熱もすごく伝わってきた。教師として生きる姿には憧れも抱いた。自分もこうありたいと思ったし、本当にこうなれるのかと焦りというか、良い意味での緊張感も抱いた。教師になった時に、今の自分と理想の自分に不安を持ってしまってもいいから、自分のためになるとして学び続けたいと思った。(学生)

・「庭理話を言う前にまずやろ!」という言葉がグサッと突き刺さっています。どこか逃げ、及び腰で、適当なことを言ってすり抜けてきた自分を感じました。(学生)

この出会い、この仲間、この人間関係を大切に!

続いて「コーホート」の「学びの仲間づくり」を行いました。同時に、子どもたちの「豊かな人間関係をつくる」ことを視点とし、授業やさまざまな指導への応用も意識しながら、人間関係づくり演習を行いました。

今なぜ人間関係?

何人でしょう?

あいうえお作文で自己紹介

あなたの人生 How much?

・人間関係のワークはとても楽しく勉強になりました。「笑顔・相づち・うなずき」の大切さがよく分かりました。「豊かな人間関係」を、具体性を持って促えることができて良かったです。(教員)

研修の振り返り: 学びのキーワードを集計しました。

最後に、今回の研修を「5つのキーワード」で表してもらいました。その結果を報告します。学生・現場教員では多少違いがありました。しかし、立場、目の前の課題、目標等により、同じ研修でも「学びの内容」は違うのは当然でしょう。それらを相互に補いながら、影響を与えながら「教職仲間」として成長したいものです。次回もふるってご参加ください。

キーワード集計 TOP10!

<p>【学生編】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情熱 ②豊かな人間性 ③師匠 ④語る、語りのプロ ⑤価値観 ⑥こけましよう、こける ⑦20年、50年先 ⑧不安、孤独 ⑨若さ ⑩学び続ける 	<p>【現場教員編】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情熱 ②豊かな人間性 ③こける、こけましよう ④未来を作る仕事 ⑤仲間 ⑥語る、語りのプロ ⑦研究授業 ⑧学び続ける ⑨原動力 ⑩価値観
--	---

次回研修会のご案内!

- 1 日時 平成21年10月31日(土) 14:00~17:30
- 2 会場 ちゃぶ台ホール 山口大学教育学部A棟 3階
- 3 内容 ①研修: 教材開発はおもしろい!そしてゴールはない!
指導者 千葉大学教育学部 准教授 土田直一先生
②演習: みんなのアイデア交流会「教材づくりの魅力」
③交流: 会員相互のピアサポート他
- 4 その他 詳細はメール連絡をします。お楽しみに!

図12 「学級通信」の実際（第1回）

受講者への補充・発展的指導、助言については、「運営委員会（運営スタッフ）」が、研修終了後に「学級通信」を作成し、全受講者に配布する形で行うこととした。研修内容のまとめ、受講者の声（感想、意見等）や記録写真の掲載に加えて、補充・発展的内容を書き込み、全回終了後に発行した。

【第2回研修会】（趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等）

①趣旨

授業や諸活動での指導の充実を図るための教材開発、授業づくりについて実践事例研究、協議等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

②開催日時 平成21年10月31日（土） 14:00～17:30

③開催場所 山口大学教育学部 「ちゃぶ台ルーム」

④研修内容等

(1) グループ演習（班別実践事例研究）（14:00～15:00）

テーマ 「100円グッズを使って私ならこんな授業をつくる（教材開発）」

指導助言者 千葉大学教育学部 准教授 土田 雄一 先生他

(2) 指導講話（15:10～16:20）

演題 「授業づくりの魅力～教材開発にゴールはない～」

講師 千葉大学教育学部 准教授 土田 雄一 先生

(3) ちゃぶ台フリー協議、ピア・サポート（16:30～17:00）

⑤参加者数

本務者（6） 臨時的任用教員（8） 学生（16） 指導者（2） スタッフ（6） 計38人

⑥研修の評価結果

観点項目は「1 学校教育や教職についての理解」「2 子どもについての理解」「3 他者との協力」「4 コミュニケーション」「5 教科教育課程に関する知識技能」「6 教育実践」「7 課題探求」であり、上図から順に、校種別協議、土田講演、ピア・サポートを示している。

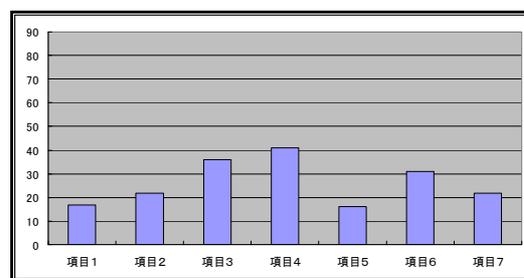
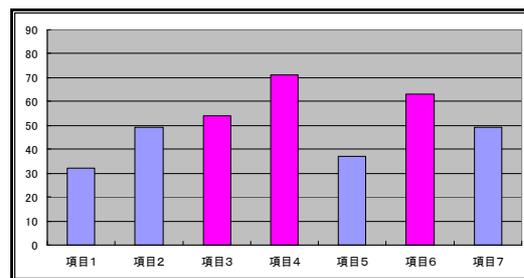
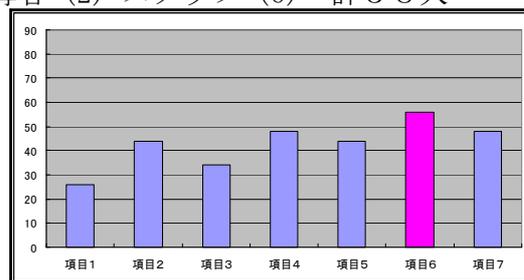


図13 内容1～3の観点別評価の実際（第2回）

【第3回研修会】（趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等）

①趣旨

家庭や地域社会との連携を活かした学校教育のあり方を学ぶため、保護者との教育や教員等にかける思いの共有や信頼される教員としての接遇等の交流、演習等を行う。

②開催日時 平成21年11月21日（土） 14:00～17:30

③開催場所 山口大学教育学部 「ちゃぶ台ルーム」

④研修内容等

(1) 講義演習 (14:00～15:00)

テーマ「信頼される教員になる～社会人としてのマナーや常識を身につける～」

指導者 (株)中国サンネット 山口支社 支社長 掛川 俊一 さん

(2) 講演、校種別協議、ピア・サポート (15:00～17:30)

テーマ「親の思いに寄り添って

～教員にできること、保護者（親）にできること、一緒にできること～」

(幼)	山口県PTA連合会事務局	辻本 千夏 さん
	山口県PTA連合会事務局長	岩村 智子 さん
(小)	和木町立和木小学校PTA	中 磯 和子 さん
	岩国市立灘中学校PTA	松本 浩一 さん
(中)	下関市立名陵中学校PTA	倉本 喜博 さん
	萩市立萩西中学校PTA	富川 芳人 さん
(高)	長門市立深川中学校PTA	安藤 明子 さん
	(株)中国サンネット 山口支社 支社長	掛川 俊一 さん

⑤参加者数

本務者 (4) 臨時的任用教員 (10) 学生 (18) 指導者 (9) スタッフ (5) 計46人

⑥研修の評価結果

観点項目は「1 学校教育や教職についての理解」「2 子どもについての理解」「3 他者との協力」「4 コミュニケーション」「5 教科教育課程に関する知識技能」「6 教育実践」「7 課題探求」であり、上図から順に、マナー講座（講義演習）、校種別協議会を示している。

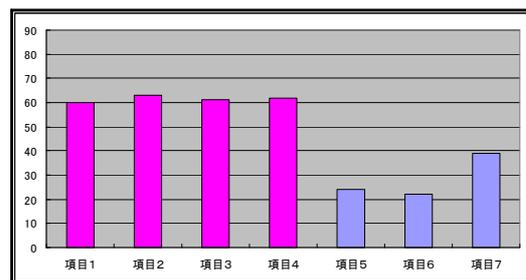
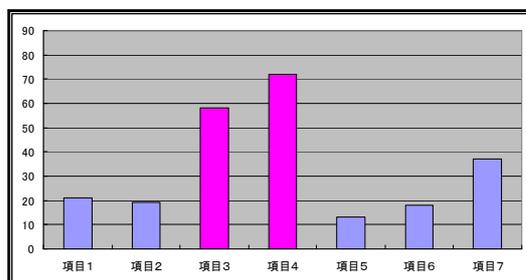


図14 内容1～2の観点別評価の実際（第3回）

【第4回研修会】（趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等）

①趣旨

子どもたちの言語活動の充実、教員（社会人）としての表現力やコミュニケーション能力の向上や「食育」にかかる先進的事例等についての研修や演習を行う。

②開催日時 平成21年12月26日（土） 14:00～18:00

③開催場所 セントコア山口 サファイアホール

④研修内容等

(1) 講義演習 (14:00～16:00)

テーマ 「『伝える』ということ」

講師 NHK山口放送局 放送部

副部長 (アナウンサー)

土方 康 さん

(2) 指導講話 (実践事例研究) (16:00～17:30)

第1部会 テーマ「学校における食育の推進」

講師 山口市立興進小学校 栄養教諭 尾上 隆子 さん

第2部会 テーマ「家族の団らんと食育の充実」

講師 株式会社 COOK & LIFE社 編集担当 岡本 昌子 さん

(3) 研究協議、グループ演習、ピア・サポート (17:30～18:00)

指導助言 山口市立興進小学校 栄養教諭 尾上 隆子 さん

指導助言 株式会社 COOK & LIFE社 編集担当 岡本 昌子 さん

⑤参加者数

本務者 (9) 臨時的任用教員 (10) 学生 (19) 指導者 (3) スタッフ (9) 計50人

⑥研修の評価結果

観点項目は「1 学校教育や教職についての理解」「2 子どもについての理解」「3 他者との協力」「4 コミュニケーション」「5 教科教育課程に関する知識技能」「6 教育実践」

「7 課題探求」であり、上図から順に、話し方講座 (講義演習)、学校食育 (指導講話)、社会食育 (指導講話) を示している。

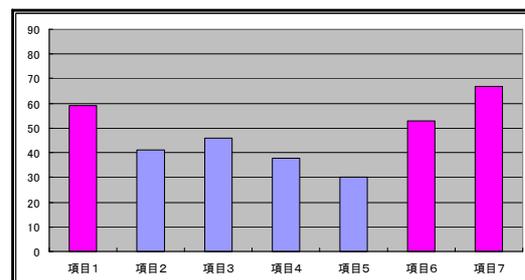
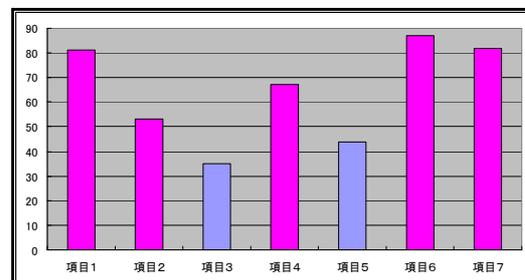
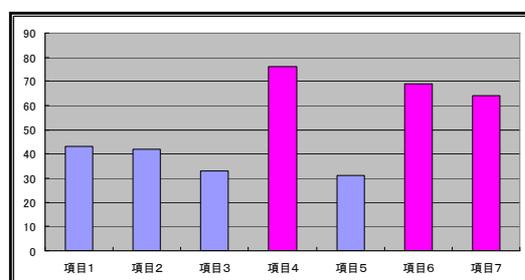


図15 内容1～3の観点別評価の実際 (第4回)

【第5回研修会】 (趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等)

①趣旨

学習指導、授業づくりにかかる先進的実践事例研究、協議等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

②開催日時 平成22年1月30日 (土) 14:00～17:30

③開催場所 山口大学教育学部 「ちゃぶ台ルーム」

④研修内容等

(1) 指導講話（実践事例発表）（14:00～15:00）

「幼稚園、保育所における保育の実際：3歳児学級を担当して！」
指導者 山口市立山口保育園 保育士 台丸園子先生

(2) 実践事例発表（校種別部会）（15:00～17:00）

「小学校における学習指導の実際：私の授業づくり！」
指導者 防府市立右田小学校 教諭 大田英樹先生

「中学校における学習指導の実際：私の授業づくり！」
指導者 防府市立華陽中学校 教諭 佐藤淳先生

「高等学校における学習指導の実際：私の授業づくり！」
指導者 山口県立佐波高等学校 教諭 西村美紀先生

(3) 研究協議、グループ演習、ピア・サポート（校種別部会）（17:00～17:30）

「授業づくり、学習指導の疑問！語り合おう！」
指導者 実践事例発表担当指導者

⑤参加者数

本務者（5） 臨時的任用教員（10） 学生（20） 指導者（6） スタッフ（6） 計47人

⑥研修の評価結果

観点項目は「1 学校教育や教職についての理解」「2 子どもについての理解」「3 他者との協力」「4 コミュニケーション」「5 教科教育課程に関する知識技能」「6 教育実践」「7 課題探求」であり、上図から順に、保育指導講話、校種別実践事例発表・研究協議を示している。

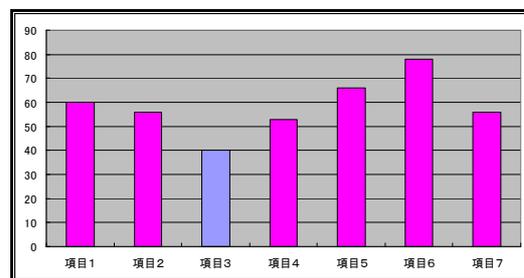
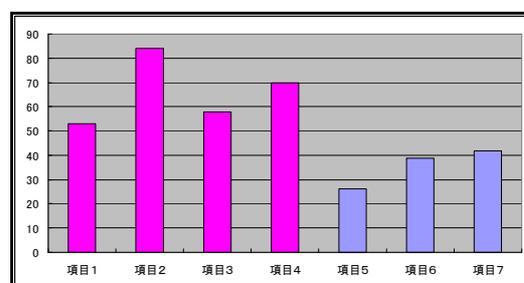


図16 内容1,2の観点別評価の実際

(第5回)

【第6回研修会】（趣旨、日時、場所、研修内容、形態、指導者、評価等）

①趣旨

特別支援教育、僻地・複式教育にかかる実践事例研究や、教員採用を目前に控えてのピア・サポート等をとおして、教員としての資質能力の向上、教育実践上の不安や悩みの除去等に資する。

②開催日時 平成22年3月13日（土） 14:00～17:30

③開催場所 山口大学教育学部 「ちゃぶ台ルーム」

④研修内容等

(1) 指導講話、実践事例発表 (14:10~16:10)

「特別支援教育の現状と課題、次代を担う若手教員への期待」

指導者 山口県立下関総合支援学校 教諭 大川 祐子 先生

「小規模校における教育の課題と実践、次代を担う若手教員への期待」

指導者 下松市立豊井小学校 校長 岩本 達彦 先生

(2) ピア・サポート (16:20~17:00)

「教職に就く前に～教育実践上の不安、悩みを克服して～」

「研修を振り返って～研修の成果と今後の課題について～」

助言者 山口県立下関総合支援学校 教諭 大川 祐子 先生

下松市立豊井小学校 校長 岩本 達彦 先生

山口県教育庁教職員課 主査 首藤 裕司

山口県教育庁教職員課 管理主事 大塚 泰二

山口大学教育学部 准教授 霜川 正幸

山口大学教育学部 准教授 長谷川 裕

山口大学教育学部 客員准教授 田中 恵子

(3) 激励の言葉 (17:00~17:30)

山口県教育委員会 教育長 藤井 俊彦

⑤参加者数

本務者 (8) 臨時的任用教員 (14) 学生 (17) 指導者 (5) スタッフ (7) 計 51 人

⑥研修の評価結果

観点項目は「1 学校教育や教職についての理解」「2 子どもについての理解」「3 他者との協力」「4 コミュニケーション」「5 教科教育課程に関する知識技能」「6 教育実践」「7 課題探求」であり、上図から順に、特別支援教育（講話）、小規模校教育（講話）、校種別研究協議（ピア・サポート）を示している。

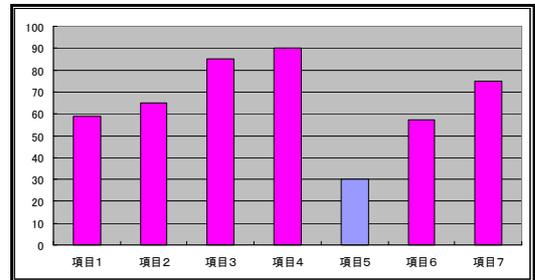
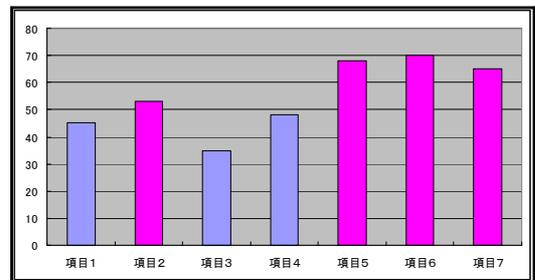
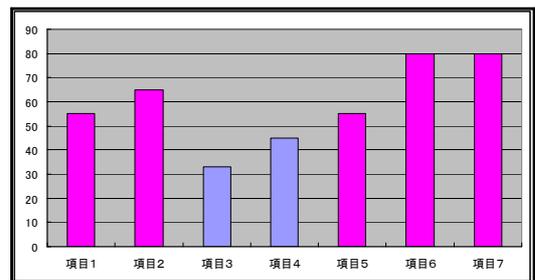


図17 内容1~3の観点別評価の実際（第6回）

(4) 既存の「ちゃぶ台」教職研修プログラムを活用した体験・省察型研修の実際

[ちゃぶ台林間学校等を活用して]

趣旨

若年教員と教員志望学生等が、集団指導や体験学習法の基礎を学び、教職にかかる学習や教育実践の充実を図るとともに、小学生を対象とした林間学校の企画、運営や評価等を体験・省察することにより、「教員としての資質能力」の向上を図る。

【夏のちゃぶ台林間学校】

①開催日時 平成21年8月28日(金) 9:00～18:30

②開催場所 国立山口徳地青少年自然の家(山口市徳地船路668)

③研修内容等

(1) 研修テーマ「夏休み最後の楽しい体験活動を創造する(教えることによる学び)」

(2) 研修日程等

開会行事(挨拶、アイスブレイキング、HR指導、交流活動)、人間関係づくり(レク、児童の課題設定・討論指導)、オリエンテーション(全体指導、体験学習法の学習、交流活動)、課題解決ウォークラリー(集団指導、場面指導等の実践)、振り返り(グループ別反省会、全体会と指導)、交流(児童交歓会、学生・教員別意見交換と全体での省察)、閉会行事(挨拶、まとめ、保護者への報告会)

(3) 受指導

指導助言者 下関市立豊東小学校 教諭 山下昌彦先生
山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田和宜

(4) 参加者の感想

「ちゃぶ林に行って、いつもとは違う子どもたちとかかわることで、違う目線から考えることができたり、先生方からいろいろな話が聞けたり、逆に話を聞いていただいたり、学生の頑張っている姿を見て、まだまだ頑張らないと気を引き締めたりとちゃぶ林に行くと新しい考えやよい刺激を受けます。卒業してもちゃぶ林に来ることの意味がを再認識しました。」



【秋のちゃぶ台林間学校】

①開催日時 平成21年11月7日(土)～8日(日)

②開催場所 国立山口徳地青少年自然の家(山口市徳地船路668)

③研修内容等

(1) 研修テーマ「徳地の秋を彩る(教えることによる学び)」

(2) 研修日程等

開会行事(挨拶、アイスブレイキング、HR指導、交流活動)、人間関係づくり(レク、児童の課題設定・討論指導)、オリエンテーション(全体指導、体験学習法の学習、交流活動)、児童の学びづくり(秋を題材にした授業設計、教材開発、授業構想と学習指導計画づくり、教材・教具作成・準備、授業実践、評価と研究協

議等)、集団指導、場面指導等の実践、振り返り(グループ別反省会、全体会と指導)、交流(児童交歓会、学生・教員別意見交換と全体での省察)、閉会行事(挨拶、まとめ、保護者への報告会)

(3) 受指導

指導助言者 下関市立豊東小学校 教諭 山下昌彦先生
国立徳地青少年自然の家 所長、課長、専門指導員の先生方
山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田和宜



【ちゃぶ台スノーキッズ】

①開催日時 平成22年1月9日(土)～10日(日)

②開催場所 広島県立もみの木森林公園(広島県廿日市市吉和1593-75)

③研修内容等

(1) 研修テーマ「冬の自然、雪を体験する(教えることによる学び)」

(2) 研修日程等

開講行事(アイスブレイキング、人間関係づくり)、児童活動の指導「吉和の夜のお楽しみ会」、交流研修「保護者と語る教育・子育ての課題と教職への思い」、体験活動(全員での雪遊び、ゲーム、雪像・家づくり、雪合戦等)グループ活動指導(雪遊び、スキー等)、交流反省会、閉講行事

(3) 受指導

指導助言者 下関市立豊東小学校 教諭 山下昌彦先生
山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田和宜
その他 山口大学体育会競技スキー部部員等



【春のちゃぶ台林間学校】

①開催日時 平成22年3月27日(土)～29日(月)

②開催場所 国立山口徳地青少年自然の家(山口市徳地船路668)

③研修内容等

(1) 研修テーマ「1年を振り返り、新しい1年に向けて(教えることによる学び)」

(2) 研修日程等

開会行事(挨拶、アイスブレイキング、HR指導、交流活動)、人間関係づくり

(レク、児童の課題設定・討論指導)、オリエンテーション(全体指導、体験学習法の学習、交流活動)、児童の活動と指導体験(学級活動、学校行事を意識した年度の反省と次年度への目標設定等の授業設計、指導法の研究、授業構想と指導計画、教材・教具作成・準備、授業実践、評価と研究協議等)、集団指導、場面指導等の実践、野外活動指導実践、振り返り(グループ別反省会、全体会と指導)、交流活動の企画運営、閉会行事(挨拶、まとめ、保護者への報告会)

(3) 受指導

指導助言者 下関市立豊東小学校 教諭 山下昌彦先生
 国立徳地青少年自然の家 所長、課長、専門指導員の先生方
 山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田和宜



[保育ボランティア派遣事業を活用して]

趣旨

若年教員と教員志望学生等が、保育所や幼稚園での保育ボランティアを行うことをとおして、保育の現状と課題、保育に関する知識や技能や幼・保・小連携の在り方等を学ぶとともに、「教員としての資質能力」の向上を図る。

【後期保育ボランティア】

①開催日時 平成21年10月19日～平成22年1月15日の間

②実施場所 愛児園平川保育所、山口市立平川幼稚園、吉敷愛児園おとり保育園、山口市立吉敷幼稚園

③研修内容等

各園での保育活動補助、園行事等の補助、特別な教育的支援を必要とする幼児の支援、その他園長等の必要に応じた活動等



④実践の成果と課題(参加者、受講者、担当者の感想から)

- ・ 園・所のきめ細かい教育活動の具体を実感するとともに、体全体で体験することによって生まれる感動、発見や新たな疑問は、次の活動への意欲に結びついた。
- ・ 幼児の年齢により思考の仕方や社会性の発達の仕方に違いがあることを行動観察の中から具体的に理解し、遊びの援助など幼児への適切な対応に心がけるようになった。
- ・ ボランティア同士が、お互いを認め合い、助け合い、協力しながら活動する姿が見られるようになり、相互の人間関係を深めることの大切さを知った。

- ・ 園・所の先生方の温かい指導や懇切丁寧な対応により、教材の作り方や活用の仕方等幼児教育の実践的な知識技能を身につけることができた。また、職場の良好な人間関係づくりの大切さに気づいた。
- ・ 幼児にとってはたくさんの人との関わりができる貴重な時間であった。
- ・ 幼児の指導について自信が持てず不安になっていたり、自ら考えた活動を実践してみたい気持ちを持っている学生がいる。そこで今後は、参加者同士の情報交換を増やす等、研修ニーズの把握に努めることが大切である。

(5) 本プログラムの公開、情報発信の実際

既に「2-(2)」で示したように、本プログラムは、山口県教育委員会の協力を得て、同教育委員会Webページ（教育庁教職員課）での公開、受講者の募集案内等を行っている。

また、「3-【第1回研修会-⑥】」で示したように、毎回の研修会后、スタッフが「学級通信」を作成し、全受講者に対して、研修内容、受講者の声や各種情報等の提供、研修の補充・発展的指導をねらいとして郵送している。

そして、これらの情報は、本プログラムの参加者に限らず、他の「ちやぶ台」関係プログラムや学部内外の教員研修に関わる者、団体や機関等の間での共有や本プログラムの成果発信を目的として、山口大学教育学部が開設している教員養成サイト（e-ちやぶ）にて公開されている。 <http://nagomi.e-chab.edu.yamaguchi-u.ac.jp/xoops/>



図18 学級通信「コーホート！HOP！」の実際



図19 教育学部「e-ちやぶ」画面の実際

Ⅲ 連携による研修の成果と課題

1. プログラム参加者の現況

本年度の本プログラム登録者数、内訳を表3に示す。

若年教員（本務者）は、県内学校・園勤務者に限らず、大阪府、神戸市、広島県、愛媛県、福岡県に広がっている。約半数は本学部卒業生であるが、山口県教育委員会や本学・学部のWebページを見て申し込んできた他大学出身の教員も多い。

若年教員（臨時的任用教員）は、県内学校・園勤務者がほとんどである。

教職志望学生は、本学部、人文学部がほとんどであるが、広島県、福岡県の大学に在籍する学生が5人参加している。彼らは山口県教育委員会Webページを見て申し込んだ者と山口県教育委員会「採用前研修会」受講時に知り申し込んだ学生である。

表3 プログラム参加登録者数一覧

現在の勤務校等	性	小学校	中学校	高等学校	特別支援	幼稚園	その他	計	
本務者	男	4	1	3	1	0	0	9	
	女	6	3	2	0	0	0	11	
臨時的任用教員	男	3	4	0	0	0	1	8	
	女	5	5	2	0	2	0	14	
若年教員合計	計	18	13	7	1	2	1	42	
現在の学部等	性	教育学部	大学院	人文学部	他学部	他大学	その他	計	
教職志望学生	男	6	1	0	0	0	1	8	
	女	16	8	2	0	5	0	31	
学生合計	計	22	9	2	0	5	1	39	
受講者合計	計	若年教員（男17・女25）			学生（男8・女31）			計（男25・女56）	計81人

2. プログラム開発の成果

本年度のプログラム開発においては、以下について貴重な成果を得た。

- ①山口県教育委員会・山口市教育委員会との連携協力の進展と教員の養成・研修の一体化に向けた機運が醸成できた
- ②若年教員のための研修の在り方についての全県アンケートをとおして、現状の把握ができた
- ③「若年教員」と「教職志望学生」による協働型教員研修モデルが計画的に実施できた
- ④各受講者層の特性、ニーズを生かし、相乗的に高める研修の工夫が図られた
- ⑤「ピア・サポート」の重要性が再認識できた

特に、山口県教育委員会・山口市教育委員会とは、企画検討、講師選定、広報周知、対教委・対学校の連絡調整や、会議での協議や情報交換等をとおして連携協力が進み、教員の養成・研修の一体化に向けた機運が醸成できたと考えている。この経験を活かしながら、今後の取組を進めて行きたい。

③～⑤について、本プログラムでは、機会をとらえて評価を行ってきたが、受講者からは高い評価を得ている。プログラムの有効性、個別プログラムの満足度について、その一部を以下に示す。

平成22年1月実施の受講者アンケート（回収40：本務教員11、臨時的任用教員15、学生14）の結果である。

問：プログラムの有効性について

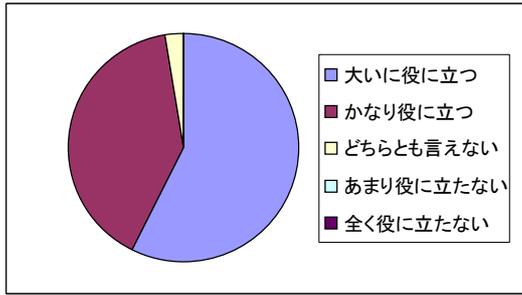


図20 全体集計

(大いに57.5 かなり40 どちらとも2.5%)

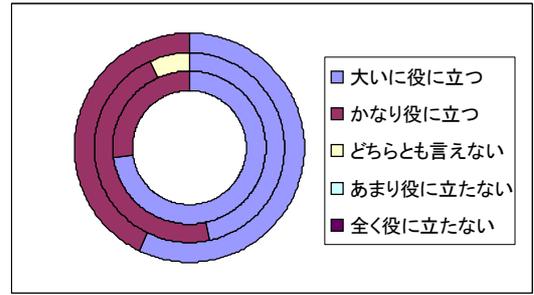


図21 受講者層別 (内から本務、臨採、学生)

(大いに・かなり 本務73・27、臨採47・47)

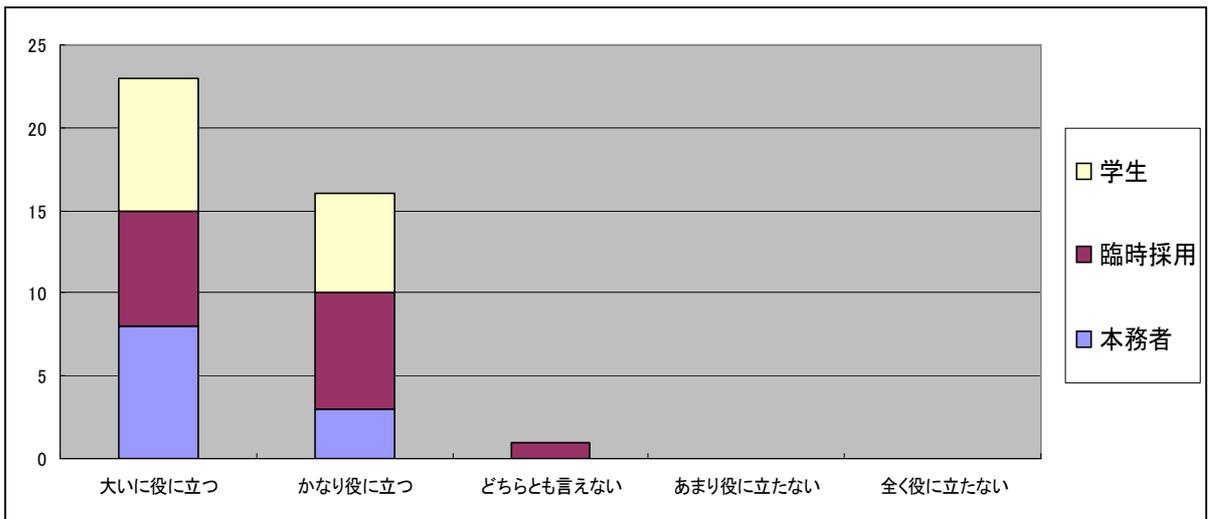


図22 受講者層別合計

問：有効と実感したプログラム内容について

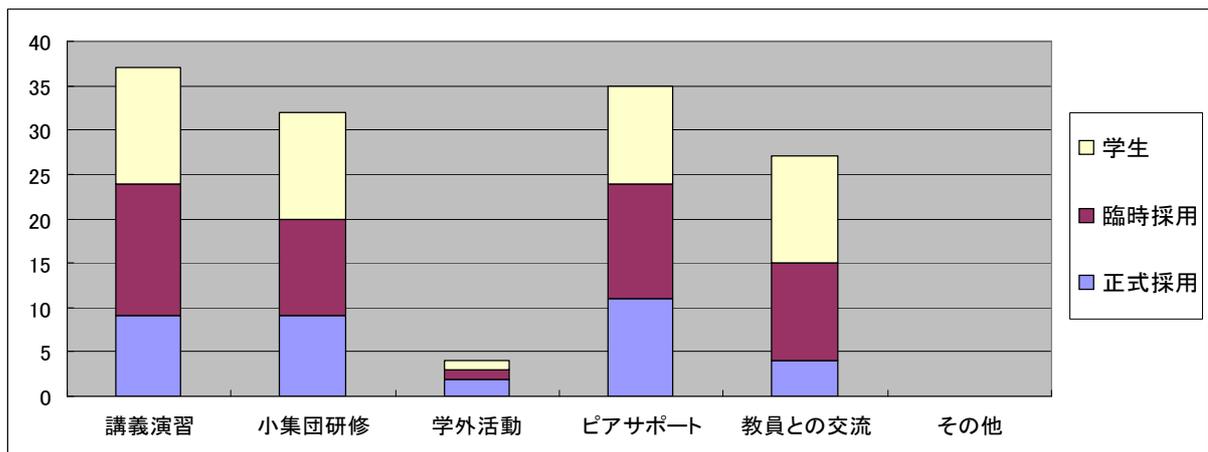


図23 受講者層別合計 (合計ポイント数)

(講義・演習、ピアサポート、小集団討論に対するニーズが高い。学外活動は参加者が少数だった)

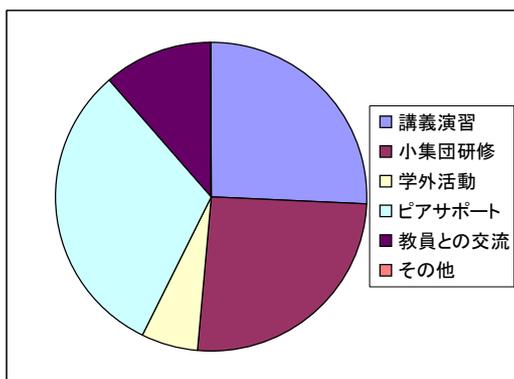


図24 受講者層別（本務者）
（ピアサポート、小集団のニーズが高い）

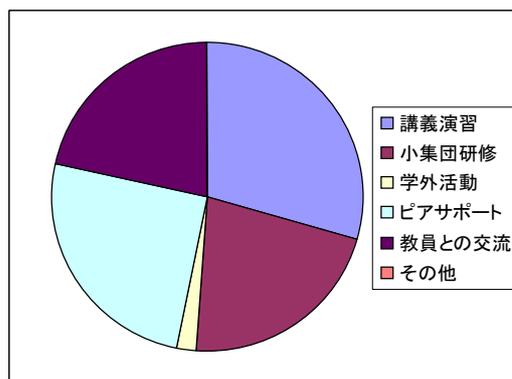


図25 受講者層別（臨時的任用教員）
（講義・演習、大学等教員からの学びが強い）

受講生の「研修に参加して」から数点を紹介する。

- ・ 人間関係づくり、学級経営、学びの集団づくりを意識した学習指導については、私が本当に学びたかったことです。学生時代も、話を聞かせてもらう機会は多少あったけれど、現場に入るとなかなか学ぶ機会がなく、手探り状態でやってきた一年でした。この一年間を、先生方の実践を聞いたり他の参加者と話ながら振り返ってみると、不十分な点がたくさん見えてきました。これからのヒントにさせていただきます。（本務者：初任者）
- ・ この研修会は多くの共感・感動があり学びがたくさんあった。皆がそれぞれつながりを求めてここに来ている感じがするので、雰囲気が温かく楽しく学ぶことができる。来る度に来て良かったと思える良い空間と思う。自分の悩みや不安を自然に自分の外に出すことができ、またちょっとしたヒントを得られることが嬉しかった。（本務者：2年目）
- ・ 明るい未来が見えたことが一番良かった。来年度も自分が教師として仕事ができるか、自分で大丈夫か... 様々な不安がある。少しずつ不安を解消していきたいと考えていたが、教職の先輩や同じ仲間たちの話を聞いて、不安ばかりだけど、それ以上に楽しみ、仕事しよう！と思えたことが一番良かった。（臨時的任用教員：2年目）
- ・ この研修会には現場教員だけでなく学生もたくさんいた。彼らと研修する中で、彼らの純粋さや一生懸命さに出会う中で、初心に戻ることができたように思う。初心を忘れず、そして向上心を持って行くためにも「コーホート」は素敵な場所だった。また来年度参加したいと思う。ありがとうございました。（本務者：2年目）

3. 今後の課題

本年度のプログラム開発をふまえて、以下について今後取り組む必要がある。

- ・ 「初任者研修」等の山口県教育委員会主催研修事業等との相乗効果を高める研修カリキュラムの開発
- ・ 各研修参加層の特性、研修ニーズを生かした受講者の参画と仕組みづくり
- ・ 自主的、主体的に自らを高める研修集団（仲間）づくりの工夫
- ・ 「ピア・サポート」のよさを積極的に生かした研修スタイルの工夫
- ・ 山口県教育委員会・山口市教育委員会と連携した協働型教職研修事業の拡大
- ・ 教員研修、教員養成における交流人事教員、実務家教員のあり方の検証

IV その他

[キーワード]

若年教員、臨時的任用教員、教職志望学生、協働型教職研修、共有と省察、実践上の不安・悩み、ピア・サポート、連携

[人数規模]

D. 51名以上 (補足事項 登録者数81、延べ参加者数282)

[研修日数(回数)]

D. 11日以上 (補足事項 ちゃぶ台次世代コーホート 6回
体験・省察型研修 6回)
林間学校、スノーキッズ、保育ボランティア

[研究分担者等]

研究代表：古賀和利 (山口大学教育学部 学部長・教授)
研究担当：霜川正幸 (山口大学教育学部・准教授)
研究分担：村上清文 (山口大学教育学部 ちゃぶ台研修部長・教授)
鷹岡 亮 (山口大学教育学部・准教授)
西岡 尚 (山口大学教育学部・准教授)
長谷川裕 (山口大学教育学部・准教授)
沖林洋平 (山口大学教育学部・講師)
研究協力：田中恵子 (山口大学教育学部・アドバイザー)
前田昌平 (山口大学教育学部・アドバイザー)
久保田尚子 (山口大学教育学部・職員)
林 弘美 (山口大学教育学部・職員)
連携協力 山口大学教育学部附属学校・園 (山口小学校、光小学校、山口中学校、光中学校、特別支援学校、幼稚園) 連携等担当者
山口大学教育学部附属教育実践総合センター

【問い合わせ先】

山口大学教育学部 霜川正幸
〒753-8513 山口県山口市大字吉田1677-1
TEL&FAX : 083-933-5458 E-mail : m-shimo@yamaguchi-u. ac. jp

山口県教育庁教職員課 大塚泰二
〒753-8513 山口県山口市滝町1-1-1
TEL&FAX : 083-933-4550 E-mail : a50200@pref. yamaguchi. lg. jp

山口市教育委員会学校教育課 縄中宏明
〒753-8513 山口県山口市中央5丁目14-22
TEL&FAX : 083-934-2862 E-mail : gakko@city. yamaguchi. lg. jp